

令和7年度

# 神奈川県 美術展

中高生特別企画展

期日 令和8年1月23日(金)－1月31日(土)

会場 鎌倉芸術館 ギャラリー



---

## 受賞作品目録

---

---

### 神山財団賞

辻井 幸緒	横浜市立戸塚高等学校	高2	眼	平面立体工芸
神奈川県立高津支援学校 高等部2年	神奈川県立高津支援学校	高2	Happiness flowers	平面立体工芸
新井 美羽	横浜市立南高等学校	高2	全臨 蘭亭書	書
三枝 真央	横浜高等学校	高2	李白詩 早発白帝城	書
坂水 香乃	向上高等学校	高3	心を込めて	写真

---

### 有隣堂賞

榛村 和奏	相模原市立相原中学校	中3	蛸	平面立体工芸
森 美緒	茅ヶ崎市立浜須賀中学校	中3	おやつ ください	平面立体工芸
萩原 ひなた	東海大学附属望星高等学校	高2	刻	書
志賀 翔	神奈川県立逗子葉山高等学校	高1	光を浴びる	写真
嶋田 彩乃	神奈川県立逗子葉山高等学校	高1	思い出	写真

---

### ゴールデン文具賞

小松 千鶴	フェリス女学院中学校	中1	臨・健中告身帖	書
前平 尚輝	横浜市立南高等学校	高2	臨始平公造像記	書
児玉 瑚夏	横浜市立南高等学校	高2	水底の	書

---

### マツダ賞

董 尚卿子	横浜インターナショナルスクール	高2	顔—その下に	平面立体工芸
田中 桜彩	鎌倉女学院中学校高等学校	中3	庭のすみ	平面立体工芸
安田 侑奈	横浜清風高等学校	高3	花より団子	平面立体工芸

---

### 美術奨学会記念賞

衣笠 創太	ルネサンス高等学校	高1	目を澄ます	平面立体工芸
王 謙蘊	神奈川県立相模原中等教育学校	高1	業	平面立体工芸
森 史花	横浜市立南高等学校附属中学校	中1	希望と努力	書
日下部 衣茉莉	向上高等学校	高1	音楽に触れる瞬間	写真
森 このは	湘南学院高等学校	高1	日向日和を想う犬	写真

※掲載順はジャンル順・作品番号順です。

※神山財団賞は、一般財団法人神山財団から贈られる賞です。

※有隣堂賞は、株式会社有隣堂から贈られる賞です。

※ゴールデン文具賞は、ゴールデン文具株式会社から贈られる賞です。

※マツダ賞は、松田油絵具株式会社から贈られる賞です。

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県美術振興に寄与してきた財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創立された賞です。

## 平面立体工芸

坂本 笑舞莉	神奈川県立柏陽高等学校	高1	写実と浪漫
ファン エリック	横浜インターナショナルスクール	中3	明るい将来に向かう
郡山 結衣	鎌倉女学院中学校高等学校	中3	愛馬
井堀 木茉莉	女子美術大学附属高等学校	高2	悪夢
小野 和	日本大学高等学校	高1	羊
黄 国軒	浅野高等学校	高2	自画像
森 若葉	横浜清風高等学校	高3	染め描く
山口 花音	立花学園高等学校	高2	面
佐藤 陽菜	綾瀬市立北の台中学校	中3	ベイブリッジ
菊地 皇佑	綾瀬市立北の台中学校	中2	盛皿「晩秋」
鈴木 陽太	綾瀬市立北の台中学校	中2	文箱「一場春夢」
松岡 美空	綾瀬市立北の台中学校	中2	長方皿「水面」
石原 尚将	浅野高等学校	高2	霜朝
佐藤 瑠香	神奈川県立七里ガ浜高校	高1	「ハンドボールって難しい〜!」
高橋 由菜	茅ヶ崎市立浜須賀中学校	中3	白とピンクのバラ
出口 茉里奈	横須賀市立横須賀総合高等学校	高3	晴れ
後藤 宗司	横浜市立大鳥中学校	中3	湖
丸山 飛燕	藤沢翔陵高等学校	高3	探してくれた絆
五十嵐 瞳	学校法人 英理女子学院高等学校	高2	日光
田口 さつき	日々輝学園高等学校 神奈川校	高3	山が見た夢
中津海 莉子	藤沢市立鶴沼中学校	中2	フクシア
村上 璃空	浅野高等学校	高2	ハト
村木 春斗	浅野中学校	中2	架空の雪山

※掲載は作品番号順です。

## 書

福井 楓	湘南学院高等学校	高3	蘇孝慈墓誌銘
浅原 夕衣音	神奈川県立城郷高等学校	高3	寂
平栗 初佳	横須賀市立浦賀中学校	中2	歴史の時間
林 ひな	大磯町立大磯中学校	中2	臨・蘭亭序
浦田 結衣	日本女子大学附属中学校	中3	花發多風雨
原田 瑚夏	湘南学院高等学校	高1	元顯偽墓誌銘
田原 弘貴	横浜市立南高等学校	高2	臨 傅山七言絶句
岡野 沙織	横浜市立南高等学校附属中学校	中2	感動の瞬間
西川 知輝	逗子開成中学校	中2	臨魏霊造像記
小見山 千慧	横浜市立南高等学校	高1	臨 魏霊蔵薛法紹造像記

※掲載は作品番号順です。

## 写真

市川 穂乃香	向上高等学校	高3	いつもと違う父の背中
川井 実咲	向上高等学校	高3	ボクノカゲ
夏目 若菜	向上高等学校	高2	春の休日
飛鳥井 佳	向上高等学校	高2	ページをめくる音
西島 煌太	向上高等学校	高3	Shadows Memory

※掲載は作品番号順です。

今回選ばせていただいた32点は受賞作品、入選作品と優劣はほとんど無いと思う。描くテーマ、道具の扱い方、どれも素晴らしいものがあった。

写真審査は難しかった。

写真で見える印象と実物の差が大きいのは絵画の方が大きい。繊細な色彩の作品ほど写真の印象が弱く、選ぶ側がより慎重に選ばなければならない。

写真の撮り方も様々で、サイズ感が伝わらない。撮っている環境や機材で作品の出来栄えが良くも悪くもなる。構図や大きさはある程度把握できて、質感や色彩は伝わりきらないところもあるだろう。わかりやすく図像がある絵や彫刻の方が伝わりやすくなる。抽象画や質感が重要な作品は判断が難しくなる。

反面、写真公募によるメリットはエントリーのしやすさで、自分も何度も経験があるが、わざわざ作品を審査場へ持ち込んで、落選してまた取りに行く虚しさは言葉にし難いものがある。

神山財団賞選出の辻井幸緒さんの《眼》は動物たちが画面を通してこちらに視線を送ってくる。なにか鑑賞者の心の内を見透かすような視線の強さのある作品であり、様々な動物たちとの共生を意味するような地球の様なモチーフも描かれる。神奈川県近年掲げる“ともに生きる”というテーマとも合致した作品であった。

もう一方は神奈川県立高津支援学校高等部2年の陶芸作品《Happiness flowers》。同じテーマで共同で制作するというのは楽しくもあり難しくもあるが、落ち着いた釉薬色でまとめられた、花をモチーフにした器の作品は見るものを楽しくさせる。陶芸は窯などの特殊な環境が必要ではあるが、手で土に触れながら作るという行為はものを作る実感がとても高いので、沢山の方に体験してもらいたい分野でもある。

有隣堂賞の榛村和奏さんの《蛸》は写実的な彫刻作品。写真審査ではどのような素材や技法で作られたかわからないほど精巧で工夫に満ちた作品で、新聞紙やガムテープといった工作材料とは思えない。実物もまた実際の蛸と同じようなサイズで吸盤のある裏側もしっかりと作りこまれていて実に良くできた作品であった。

森美緒さんの《おやつ ください》は箱の中にレイヤー状にオブジェクトが並び空間を作っている。まるでジョセフコーネルの様な作品であった。これも写真ではわかりにくい作品のひとつであったが、実物は想像以上に隙なく作られたものであった。レイヤー空間表現という発想もコンピューターが家電化して一般的になっ

てきたと思う。

マツダ賞の安田侑奈さんの《花より団子》は実に高校生らしい晴れ晴れとした作品。規定サイズいっぱいの大画面に才色より食欲と言わんばかりの画面構成は鑑賞者を元気にする。基本技術も高く完成度も高い作品であった。

董尚卿子さんの《顔 — その下に》はテーマ、描画力ともレベルの高い作品で、画面いっぱいの顔は不気味さを描きながらもコミカルな印象を感じさせる作品である。舌の裏に描かれたイニシャルに暗号的意味を持たせ、見る側に様々な考えを及ぼす手法はとても考え練られたものであった。

田中桜彩さんの《庭のすみ》はサボテンを丁寧に写実した温かみのある作品。庭の片隅を切り取るという視点も、ただ目立つものやわかりやすいものではなく、見落としそうなものに気を向けるという感性も素晴らしい。

マツダ賞は三者三様で、平面という以外はテーマもサイズも表現も異なる選出で改めて絵画の表現方法の多様さや面白さを体感できた。

美術奨学会記念賞の衣笠創太さんの《目を澄ます》は曇ったガラスに映された自身の顔を描いた作品で、人が気が付かないような微細な日常の現象に気が付くというアートにとってとても大事な感性を働かせて描いた作品。

王謙蘊さんの《業》は若者が等しく感じる“不安”“葛藤”“孤独”の様な自意識過剰な内的感情を画面の中に佇む人物から感じさせられる秀作であった。ルオーやゴッホに通じる闇を表現するには作者の知性や人間力の高さが覗える。

その他惜しくも賞を逃した作品でも、繊細な切り絵とゴミになるような段ボールを組み合わせた井堀木菜子さんの《悪夢》は表現のギャップをぶつけた怪作。山口花音さんの《面》は基礎力の高いクールな描写力がかわいいパンダの表情を描いていた。五十嵐瞳さんの《日光》は筆致が個性的で、描かれる風景に独自の空間性を発揮していた。

語り出せばきりが無いが、入選作品のどの作品にも見どころがあった。デジタル世代の表現として、絵画や彫刻、工芸といった古くからある技法は如何様にして存続を意味していくのかと思うところもあったのだが、素材に直接手を触れながら作っていくことに未だ可能性を感じさせるものが多数あったことはとても嬉しいことである。

神奈川県美術展に中高生特別企画展が併催されてから11年という歴史が刻まれていたことに改めて感慨深い気持ちである。今回は県民ホール建替のための休館を受け、本展の公募展は中止、60周年を記念し、「これまでも、これから」と題し受賞作家展として鎌倉芸術館での開催。一方、中高生特別企画展は、6年間しかないチャンスを1年でも飛ばさないようにという配慮から通常通り開催された。また、日程も通例と異なり、何よりWEB画像審査の導入は初めてのこと。写真画像を申し込み時に添付して送る方法もさることながら、第一次審査はPC上の画像とA4に印刷された写真で行われた。書は2Dつまり平面ではあるが、紙への墨のくい込みの度合いや、書線の質など様々な要因による立体感までは正直言って、写真では掴みきれない部分もある。入選作品を決定する第一次審査では、そこを推測して選抜させていただいたのだが、入落決定は僅差。迷いながらも結果を出さざるをえない審査員のジレンマを大いに感じながらの作業であった。

総評としては、技術の水準はとても高く、良く鍛え上げられた作品が多くを占めていたと感じている。また、技術もさる事ながら、書は、まず書くことが好きでなければ上手くなれない。書くことが好きというその純粋な心が滲み出ている作品が観るものの感動を呼び寄せるのだということも大事な評価点でもあった。

それでは入賞作品についての講評を進めていくことにしよう。

神山財団賞の新井美羽さん。書の古典の王道を原本の構成通りに再現した全臨の力作である。腰を据えた書きぶりにまず感心しきりである。リズム良く乱れない筆致はどれだけ背後に反故が積まれているかの証である。完成度の高さを評価させていただいた。

続いて、同じく神山財団賞の三枝真央さん。古典臨書ではなく、北魏の造像記の倣書作品。臨書とは異なり自分なりの表現を必要とされる分、難易度も高い。鋭く紙背にくい込む書線が黒を際立たせ、白が美し

く映えているところがこの作品の魅力である。

有隣堂賞の萩原ひなたさん。紙面に1文字を表現する大字と呼ばれるジャンルの作品である。「刻」という文字を身体全体を使って思い切り良く書き切っている潔さが良い。伸びのある前半の書線とそれに対する最終画の厳しい書線がお互いを引き立てあっている見どころの多い作品である。

ゴールデン文具賞は3名。まずは前平尚輝さん。表彰式でもこの『始平公造像記』が大好きだと話されていたが、その通り野太い線を力強くリズム良く表現された痛快な作品で、前平さんの想いが伝わってくる。技術は勿論だが、この想いが紙面に一気に通貫して展開され、鑑賞者までも巻き込む力を持った作品である。

続いて、児玉瑚夏さんは仮名作品である。大字仮名をしっかりと書き込み、紙面にくい込む筆力と高度な表現の備わった作品だ。構成にも安定感があり、墨色も良い。何度も何度も繰り返し筆を運ぶ姿を想像させる作品である。

3作目は小松千鶴さん。中1で臨書はまだ多く経験されていないであろうが、顔真卿の個性的な筆法を上手く表現され、まとまりが良い作品。「開・國」の縦画にも力強さがあり、これからの可能性を大いに期待したい作品である。

美術奨学会記念賞は森史花さん。書写の典型的な楷書作である。字形もまとまりが良く、線も澄んで爽やかな仕上がりである。筆を持つことが大好きで、楽しんで紙と対峙していることがひしひしと伝わってくる作品である。

入賞者7名そして入選された10名の皆さん、本当におめでとう。そして、惜しくも入選を逃した皆さん、冒頭にも記した通り入落は僅差。是非次回も挑戦し、書くことの楽しさや魅力を多くの方たちへ伝えるメッセンジャーとなって活躍していただくことを大いに期待しています。

今年度は応募人数45人から118点の応募が寄せられ、コロナ禍を経て再び外の世界へと視線を向ける中高生たちの感性の広がりを感じる審査となりました。友人や家族、身近な自然、学校や日常の風景など、特別ではない題材が多かったように思います。

今回はこれまでの審査方法とは異なり、まずモニター上で画像による一次審査を行い、その後、プリントされた作品を展示空間で見る二次審査を実施しました。写真は、モニターなどの透過光で見る場合と、紙に出力されたプリントとして展示空間で見る場合とでは、印象や情報量が大きく変わります。最終的な作品形態はプリントであるため、作品の印象に加え、色彩や階調、画面の密度など、プリントとしての完成度が評価の分かれ目となり、入選にも大きく関わりました。

神山財団賞を受賞した坂水香乃さんの《心を込めて》は、干されて並ぶ梅干しを画面いっぱい捉え、視覚だけでなく酸味のある香りまで漂ってくるような一枚です。食べ物と丁寧に向き合う箸を持つ手だけを画面に入れた構成もよく、鑑賞者の想像を誘う物語の余地を残しています。構成力と見た目のインパクトに加え、どこかユーモアも感じさせる、てらいのない表現が印象的でした。

有隣堂賞を受賞した志賀翔さんの《光を浴びる》は、木々の間から差し込む光を受けて輝く植物を捉えた作品です。葉の重なりにも生まれる明暗を生かした構図により、自然の中で空を仰いだときの感覚が率直に伝わってきます。外に出ることが制限された時間を経たからこそ、光を浴びる喜びが清々しく表現されています。

同じく有隣堂賞の嶋田彩乃さん《思い出》は、放課後の校舎と校庭を、教室からの視線で切り取った一枚です。遠くに見える山や、テニスコートに見える人の姿、手前に写り込む女学生の髪など、複数

の要素が重なり合うことで、放課後の時間と空間が立体的に描かれています。学校を卒業した後に振り返ったときにも、まさしく良い「思い出」として心に刻まれるような作品です。

美術奨学会記念賞の日下部衣茉莉さん《音楽に触れる瞬間》は、トランペットを演奏する瞬間を捉えたモノクロ作品です。金属に反射する光と指先の陰影が画面に緊張感を生み、音のない写真でありながら確かな音量と熱量を感じさせます。思い切ってモノクロームを選び、演奏する楽器と手元にクローズアップしたことで、短い時間に凝縮された青春の一コマが、強い印象をもって迫ってきます。

同じく美術奨学会記念賞の森このはさんの《日向日和を想う犬》は、穏やかな表情の犬を正面から捉えた作品です。マルチーズのような白い毛並みと、こちらを見つめる人懐っこさを感じさせる表情に思わず引き込まれます。柔らかな光が毛並みの質感を自然に引き出し、被写体との距離の近さが伝わってきます。

受賞には至らなかった作品の中にも、印象に残る表現や確かな視点を持った作品が多く見られました。今は、いつでもどこでも世界中の人々と写真を通じてつながり、コミュニケーションを取ることができる時代になりました。写真は国や言葉を越えて伝わる「写真言語」として、世界中で共有される表現です。写真を撮り、また読み取る力は、これからの皆さんの生活の中で、ますます重要になっていくでしょう。今後も、それぞれの感じ方を大切にしながら、多くの瞬間を写真に残していってください。

県民ホール建替のための休館にともない、神奈川県美術展が今年度は休止となったものの、中高生特別企画展は今年度も無事開催されることとなりました。それもひとえに、本展はその名の通り応募資格を中高生に絞ったものであり、皆さんの貴重な機会を損なってしまうことを避けるためです。ただ会場の問題などもあって、一次審査はデジタルで申請していただいた画像をもとにオンラインで入選作品を選び、二次審査は会場に実際に並んだ作品を拝見して入賞作品を選ばせていただきました。

個人のお名前などを逐一参照することが叶わないので、どれだけの方が継続的に出品してくれているのかわからないのですが、中高生特別企画展は誰しものが人生においてどんなに多くとも6回しか応募できません。もちろんその後は一般部門の神奈川県美術展に出していただければよいのですが、中高生部門は審査基準もいわゆる上手さや芸術性の高さというよりは、若さ、勢い、可能性といったところに大きく振っていますので、粗削りであってもかまいませんし、この年齢だからこその表現——そんなものを今年も期待しながら審査に臨ませていただきました。

絵画や工芸などに顕著でしたが、個人的にも観たいと思っていたいわば「表現したくてしょうがないからかたちにした」ような作品が散見できたのは、とても嬉しいことでした。もちろん、他人にそれを伝えるためにはある程度の技術が必要とされることがありますが、それを忘れさせるほどの勢いある作品を目にしたとき、やはりそれを見過ごすことはできません。これは毎年お伝えしていますが、入選には至らなかった作品の中にもどうしても忘れられないものがあります。そんなあなたが、これを読んでくれていたらと願ってやみません。そうした応募者こそ、来年こそは…と意気込んでまた新作を拝見させてくれたら、そんな嬉しいことはあり

ません。

感性の成熟がある一方で、やはりその歳なりに知識や経験の成熟がみられるのも、この部門のとても面白いところです。書や写真は、絵画や彫刻以上に様々な手本や先達が大いに創作の助けやインスピレーションとなるものですが、そうしたところを意識しつつ、その殻をどうやって破っていくかを考えるのもまた一興でしょう。特に、写真作品はデジタルカメラやスマートフォンの普及で敷居がいっそう低くなりつつある一方で、いわゆるSNSやインターネットに広がる“画像”ではなく、芸術や記録としての“写真”の歴史はゆうに200年を超えて存在しますし、書道はさらに桁が変わります。そうした歴史に積み重なるようにして、自分が今なし得ることは何なのか、そうしたことが直感的に表現できれば、とても見ごたえのあるものになるのでは、と思っています。

最後にお伝えしたいのは、今年出品いただいたものは現時点でのあなたの最良の作品かもしれませんが、もしあなたが制作を続けていくのであれば、ほとんどの皆さんにとって今回の応募作は最高傑作ではなくなるという、ごく当たり前のことです。これから一層多くの経験を経て、感性を研ぎ澄ませ、知識を身につけ、その先に想像もつかなかったあなたの最高傑作が10年後、20年後、ひょっとすると50年後に現れることとなります——まずは来年度、その時点でのあなたの最高傑作をまた拝見できるのを、心より楽しみにしています。



## 神山財団賞

---

眼

辻井 幸緒

横浜市立戸塚高等学校 高2

[平面立体工芸]



## 神山財団賞

---

Happiness flowers

神奈川県立高津支援学校 高等部2年

神奈川県立高津支援学校 高2

[平面立体工芸]

永和九年歲在癸丑暮春之初會  
于會稽山陰之蘭亭脩禊事  
也羣賢畢至少長咸集此地  
有峻領茂林脩竹又有清流激  
湍映帶左右引以為流觴曲水  
列坐其次雖無絲管琴瑟之  
盛一觴一詠亦足以暢叙幽情  
是日也天朗氣清惠風和暢仰  
觀宇宙之大俯察品類之盛  
所以遊目騁懷足以極視聽之  
娛信可樂也夫人之相與俯仰  
一世或取諸懷抱悟言一室之內  
或因寄所託放浪形骸之外雖  
趣舍萬殊靜躁不同當其欣  
於所遇暫得於己快然自足不  
知老之將至及其所之既倦情  
隨事遷感慨係之矣向之所  
欣俛仰之間以為陳迹猶不  
能不之興懷况脩短隨化終  
期於盡古人之死生亦大矣豈  
不痛哉每攬昔人興感之由  
若合一契未嘗不臨文嗟悼不  
能喻之於懷固知一死生為虛  
誕齊彭殤為妄作後之視今  
亦由今之視昔 悲夫故列  
敘時人錄其所述雖世殊事  
異所以興懷其致一也後之攬  
者亦將有感於斯文 美羽

### 神山財団賞

全臨 蘭亭書

新井 美羽

横浜市立南高等学校 高2

[書]



### 神山財団賞

---

李白詩 早發白帝城

三枝 真央

横浜高等学校 高2

[書]



### 神山財団賞

---

心を込めて  
坂水 香乃  
向上高等学校 高3  
[写真]



**有隣堂賞**

---

蛸  
榛村 和奏  
相模原市立相原中学校 中3  
[平面立体工芸]



**有隣堂賞**

---

おやつください  
森 美緒  
茅ヶ崎市立浜須賀中学校 中3  
[平面立体工芸]



有隣堂賞

---

刻  
萩原 ひなた  
東海大学附属望星高等学校 高2  
[書]

有隣堂賞

---

光を浴びる  
志賀 翔  
神奈川県立逗子葉山高等学校 高1  
[写真]





有隣堂賞

---

思い出

嶋田 彩乃

神奈川県立逗子葉山高等学校 高1

[写真]

ゴールデン文具賞

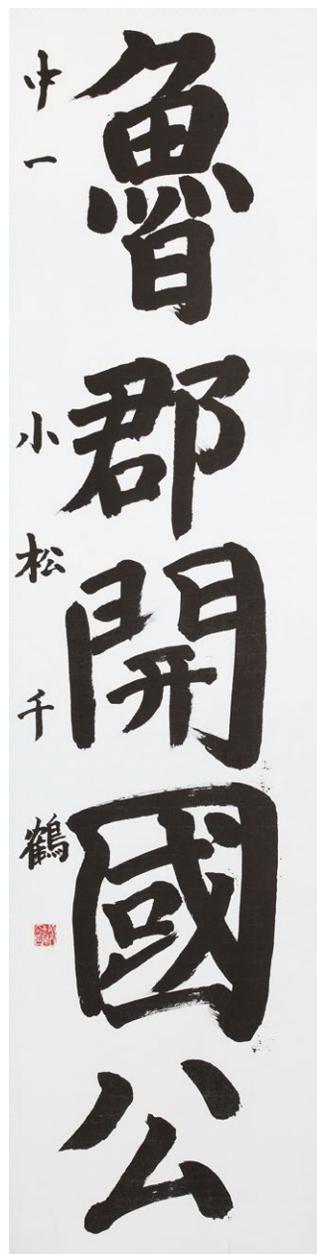
---

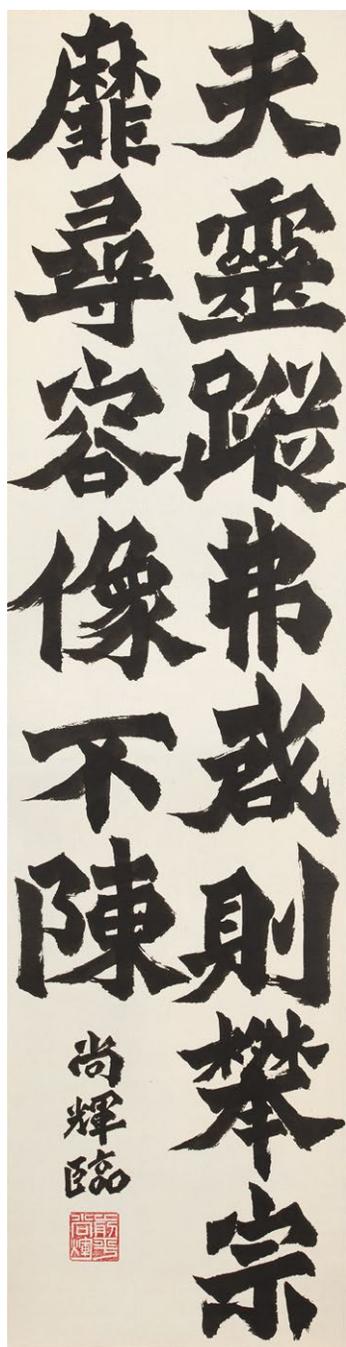
臨・健中告身帖

小松 千鶴

フェリス女学院中学校 中1

[書]





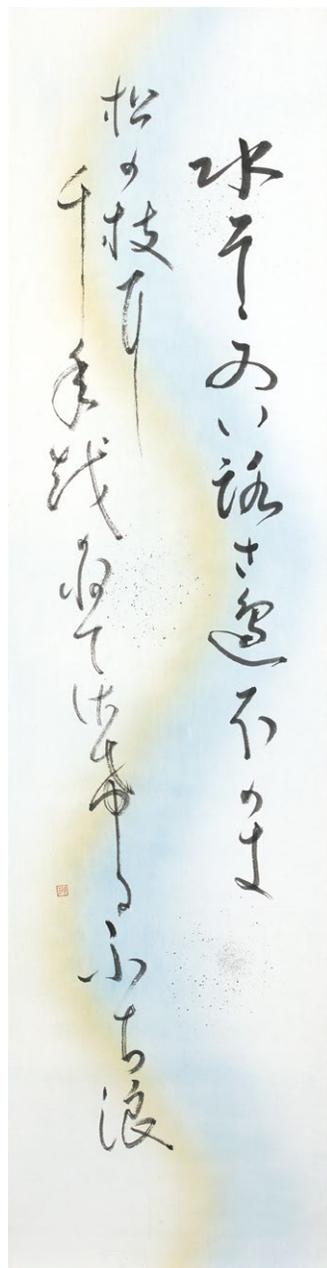
ゴールデン文具賞

臨始平公造像記

前平 尚輝

横浜市立南高等学校 高2

[書]



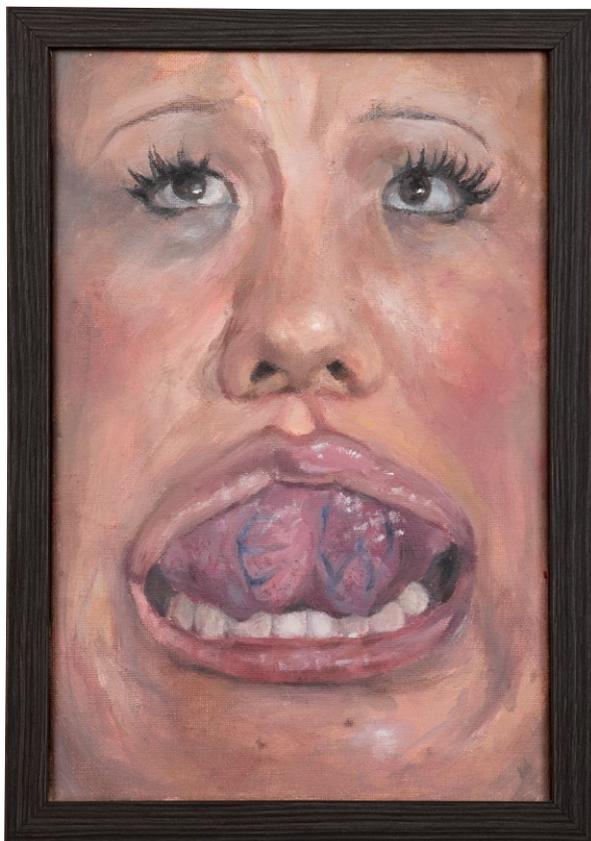
ゴールデン文具賞

水底の

児玉 瑚夏

横浜市立南高等学校 高2

[書]



### マツダ賞

---

顔 — その下に

董 尚卿子

横浜インターナショナルスクール 高2

[平面立体工芸]

### マツダ賞

---

庭のすみ

田中 桜彩

鎌倉女学院中学校高等学校 中3

[平面立体工芸]





### マツダ賞

---

花より団子

安田 侑奈

横浜清風高等学校 高3

[平面立体工芸]

### 美術奨学会記念賞

---

目を澄ます

衣笠 創太

ルネサンス高等学校 高1

[平面立体工芸]





美術奨学会記念賞

---

業

王 謙蘊

神奈川県立相模原中等教育学校 高1

[平面立体工芸]



美術奨学会記念賞

---

希望と努力

森 史花

横浜市立南高等学校附属中学校 中1

[書]



美術奨学会記念賞

---

音楽に触れる瞬間

日下部 衣茉莉

向上高等学校 高1

[写真]

美術奨学会記念賞

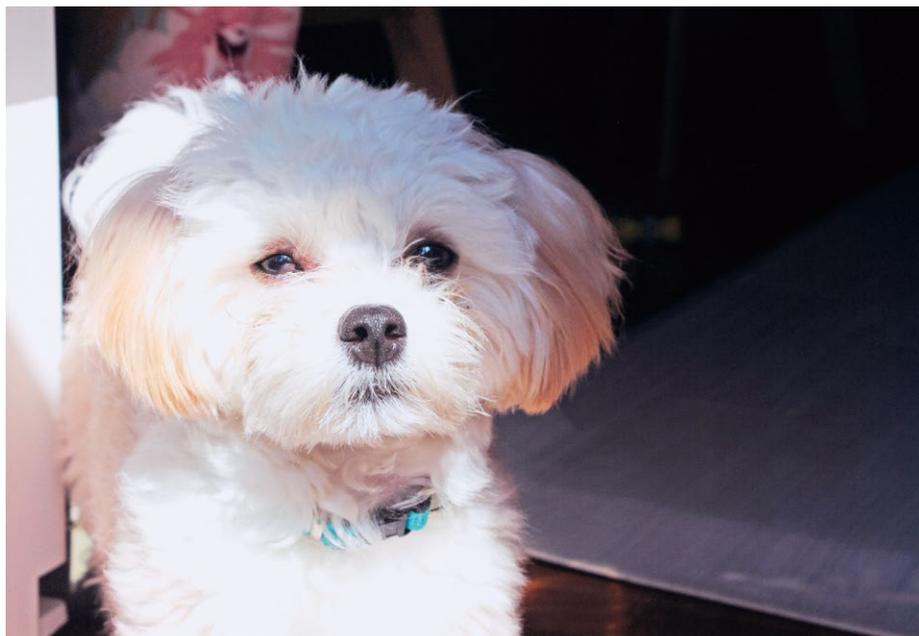
---

日向日和を想う犬

森 このは

湘南学院高等学校 高1

[写真]



## 審査員

吉田 有紀、日守 菜穂子、村上 仁一、高嶋 雄一郎

## 応募人数・応募点数・入選点数・入賞点数一覧

令和7年度(※)

	平面立体工芸	書	写真	合計
応募人数	108	79	45	232
応募点数	139	80	118	337
入選点数	32	17	10	59
内、入賞	9	7	5	21

※令和7年度は神奈川県美術展公募休止

令和6年度(第59回)

	平面立体工芸	書	写真	合計
応募人数	168	122	108	398
応募点数	190	126	255	571
入選点数	38	25	21	84
内、入賞	8	5	5	18

令和5年度(第58回)

	平面立体工芸	書	写真	合計
応募人数	149	102	132	383
応募点数	175	103	254	532
入選点数	35	25	22	82
内、入賞	8	5	5	18

主催：神奈川県美術展委員会・神奈川県民ホール・神奈川県

共催：鎌倉市芸術館指定管理者 鎌倉市芸術文化振興財団・国際ビルサービス共同事業体

協賛：中高生特別企画展：(一財)神山財団・(株)有隣堂・ゴールデン文具(株)・松田油絵具(株)

神奈川県美術展：(公財)はまぎん産業文化振興財団・(株)ホテル、ニューグランド

後援：神奈川新聞社・NHK横浜放送局・tvk・FMヨコハマ

令和7年度神奈川県美術展中高生特別企画展

発行：神奈川県文化スポーツ観光局文化課

TEL 045-210-3808(直通)

